

4) 樹木年輪と歴史・古環境

田鶴 寿弥子（京都大学・生存圏研究所）

渡邊 裕美子（京都大学・理学研究科）

1. 研究組織

代表者氏名：杉山 淳司（京都大学・生存圏研究所）

共同研究者：津田 敏隆（京都大学・生存圏研究所）

田鶴 寿弥子（京都大学・生存圏研究所）

反町 始（京都大学・生存圏研究所）

田上 高広（京都大学・理学研究科）

渡邊 裕美子（京都大学・理学研究科）

大山 幹成（東北大学・学術資源研究公開センター植物園）

2. 新領域開拓のキーワードと関連ミッション

圏間共同研究

ミッション1：環境計測・地球再生

千年居住圏

3. 研究概要

テーマ A: 材鑑調査室の歴史的な古材を活用した樹木年輪データベースの構築と応用

京都大学生存圏研究所材鑑調査室には用貴重な古材試料が数多く所蔵されているだけでなく、現在も収集が続けられている。主に目録の記録にのみ頼って分類されている古材試料に多義的な価値を持たせ、様々な研究分野で活用するために、科学的手法に基づいた正確な暦年代をつける必要がある。そのために、古材年輪の測定、標準年輪曲線の構築、標準年輪曲線延長と補強、古気候復元の精度向上を進めてきたので報告する。

テーマ B: アジア赤道域における季節スケールの気候・環境変遷の復元

本プロジェクトでは、インドネシアの樹木年輪の構成要素を複数分析し、気象観測データと高精度で対比することにより、「アジア赤道域における季節スケールの気候・環境変遷の復元」を目指している。これまでに、インドネシア産 熱帯樹（スンカイ 1 個体; SungkaiNAN7）のマルチ樹木年輪データと気象観測データの系統的な比較から、古気候指標としての信頼度を評価した。加えて、インドネシア産の樹木サンプルに関する情報収集を行い、数多くの樹木ディスク（主にスンカイとチーク）を収集することに努めた。